

読み深めから表現活動へ

高木 淳

(長野県長野市立西部中学校)

1. はじめに

2年生の2学期あたりになってくると、これまで学んだ知識をもとに、教科書の本文をさらに読み深めることが可能になってきます。NEW CROWNには、各学年に、LET'S READという形で新出文法のない読み物教材が位置づけられています。そこで、2年生のLET'S READ 2 “Zorba's Three Promises”を例に、読み深めから表現活動につながる指導方法について考えてみたいと思います。

2. 手順とゴールの提示

ここでは、グループで紙芝居風にアフレコを行うことを伝えます。本文は前半の2ページ、後半の2ページと分けて扱います。生徒の活動手順は以下の通りです。

- (1) 5～6人のグループで配役を決める。
- (2) ワークシート(図1)をもとに、LanguageとPerformanceの2つの観点にそって、大事に読みたい箇所を考える。

＜Language＞	
(1) 正確な発音で自信をもって読めるようにしたい単語	(2) 意味のまとまりを大事にしたい箇所
<input type="text"/>	<input type="text"/>
(3) 単語以上のつながりや韻律を大事にしたい箇所	
<input type="text"/>	
＜Performance＞	
*場面や雰囲気伝えるための読み方	
この箇所(原文)を	このように読みたい
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>

図1 ワークシート(一部抜粋)

- (3) 記入したワークシートにそって、個人やグループで練習を行う。その後、グループで聞き合い、

アドバイスをし合う。

- (4) デジカメで撮ったピクチャー・カードをテレビの画面に映し、それをビデオカメラで撮影しながら、ビデオカメラのマイクの周囲で発表する(アフレコ)。グループごとに別室で行う。

発表の観点をLanguageとPerformanceの2観点とすることで、lay an eggやpromised your motherのような語と語の連結による音変化など、英語らしい発音、強勢、イントネーションや意味の区切りなどの音声について意識させると同時に、内容理解をともなった発表にすることができません。さらに、ワークシートに記入した事柄と発表がつながるように、ループリック(評価基準表)(右ページ, 図2)を作成し、自己評価をさせます。段階の「3」は全員がめざすべき到達目標です。

3. 心情理解のために

概要理解の読みで、感想を書かせたり、感動したところにアンダーラインを引かせたりしたあと、教師から以下のような質問で心情面の理解に揺さぶりをかけます。

- ・ゾルバはカモメが懇願する3つの約束のうち、2つには快く応じるが、3つ目の質問には“Me?”と聞き返しているがなぜなのか。
- ・“So I must fly.”のセリフには、ラッキーのどのような気持ちが表れているのか。
- ・自分は猫だと思って育ってきたラッキーは、ゾルバから告げられる言葉をどのように受け入れるのか。

以下は、教師からのこれらの質問をもとにPerformanceの観点で実際に生徒がワークシートに記入した内容の一部です。

- (1) Me? / 猫で飛び方を知らないこのおれが?

という驚き。

- (2) Yes, you. / あなたしかいないのです。お願いしますという感じ。
- (3) OK. I'll try. / 戸惑いながら。
- (4) Thank you. / 力尽きた感じと、三つの約束を受け入れてもらえた安堵感。
- (5) Rats and strange cats attacked her. / 怖さをだす感じで。
- (6) Lucky. Now it's time to fly. / 大きく「さあやるぞ」みたいに。
- (7) Why do I have to fly? Cats don't fly. / 何と言っているのかわからないという感じで。
- (8) Me? A gull? / 驚きと疑いを込めて。
- (9) So I must fly. / 戸惑いながらもだんだん理解する感じで。
- (10) And I promised your mother. / 思い出しながら言っているように。
- (11) One rainy night Zorba and Lucky went to a tall tower. / 足がすくむくらい高いという感じで。
- (12) Lucky, all the sky is yours. / ラッキーが安心するように。
- (13) I love you too. / もう会えないのだな…と少し寂しげに。
- (14) Zorba said to the empty sky. / ゾルバの寂しさとうれしさが入りまじった感じが伝わるように。

中には、Now it's time to fly. の箇所を、「ラッキーが安心するように読みたい」や「わざと明るくしているように読みたい」と書いた生徒もいました。ゾルバにとって3つ目の約束を果たすことはラッキー

との別れをも意味するということまでを読み取って考えたでしょう。

4. どのように発表させるか

発表は、同じ内容のものを2回行うことを伝えておきます。これは、最終ゴールへ向けてのチャレンジが1回のみで終わりではなく、つまずきのもとに、再度、練習する段階をもうけるためで、他の言語活動を行う際にも大事にしていることです。実際、1回目の発表では、レコーディングという極度の緊張からセリフが飛んだり、セリフを口に出すことで精一杯だったりする生徒が多く、ルーブリックを用いた自己評価でも「2」が多くなります。1回目の発表の映像を見せて、他のグループのよさを共有させることで、2回目の発表での高まりが期待できます。上手に表現できた生徒に、どんな感じを伝えようとしたのかを語らせるのもよいと思います。

私が実践した学級では、発表後にグループ内でハイタッチをして、互いの成果をたたえ合う生徒たちの姿が印象的でした。

5. おわりに

“Thank you.”にしても“So I must fly.”にしても、文法の観点からは、生徒にとって既習の簡単な英文です。正確な発音や声量といった通常のLESSONで求められる力だけではなく、その言葉が発せられている場面や登場人物の心情を考えると、生徒は表現としての英語を身につけていくのだと考えています。単元終了時の感想では、「自分が役になりきることで、ストーリーの人物の気持ちまでわかったと思う」「このように本文を練習すると

楽しかったし、英文も内容も覚えやすかった」という記述が多く見られます。これまで学習してきた英語を、心情面とからめてじっくり味わい表現する。LET'S READのように新出文法のない読み物教材の単元だからこそできるチャンスだと考えています。

Zorba's Three Promises 発表用ルーブリック		2 nd Grade Class		No.:	Name :
観 点	1	2	3	4	
Language 英語の運用	①自信をもって読めない単語がある。 ②単語の発音がカタカナ読みであったり、単語同士の音のつながりや抑揚の表現ができないものが多い。	単語同士の音のつながりや文の抑揚に気をつけて表現できたところが2カ所以上ある。	単語同士の音のつながりや文の抑揚に気をつけて表現できたところが4カ所以上ある。	単語同士の音のつながりや文の抑揚に気をつけて表現できたところが5カ所以上ある。	
Performance 表現の仕方	自分のせりふをほとんど覚えておらず、ストーリーの場面・役割やせりふに応じた感情を込めた発表になっていない。	みんなに聞こえる声で発表し、ストーリーの場面・役割やせりふに応じて工夫した箇所が2カ所以上ある。	①適切な声量で発表し、ストーリーの場面・役割やせりふに応じて工夫した箇所が3カ所以上ある。 ②自分のせりふだけではなく、全体の流れを考えながら、友のせりふにかかわらせて発表することができる。	完全に役になりきって発表し、ストーリーの場面・役割やせりふに応じて工夫した箇所が4カ所以上ある（練習のとき以上の発表ができる）。	

図2 ルーブリック（一部抜粋）